

「令和3年度大学入学共通テスト（数学）」の アンケート調査結果について

千葉県高等学校教育研究会数学会研究委員会

石田 俊介（県立柏中央高等学校）

山田 悠介（県立東金高等学校）他9名

1 研究のねらい

昨年度まで続いた大学入試センター試験（以下センター試験）は、今年度より大学入学共通テスト（以下共通テスト）に変わった。共通テストは国公立大学のみならず、およそ9割の私立大学で入試に利用されている。当研究委員会では共通テストが高等学校の教育に与える影響力の大きさを考慮し、第1回共通一次試験以来、共通一次試験およびセンター試験の分析を継続的に行ってきた。例年に引き続き、県内の一部の受験生や数学科主任を対象に実施した共通テスト、主に「数学Ⅰ・数学A」（以下「数学Ⅰ・A」）と「数学Ⅱ・数学B」（以下「数学Ⅱ・B」）に関するアンケートの結果をもとに試験の問題点の指摘を行い、高等学校の教育現場に還元できる情報を提供することが研究のねらいである。なお、今までの研究結果については、部会誌「 $\alpha-\omega$ 」の各号、数学会ウェブページ(<http://math.sakura.ne.jp/>)を参照していただきたい。

2 アンケート調査の実施方法

(1) アンケート実施時期

共通テスト実施直後

(2) アンケート依頼校

ア 受験生（12校）

県立千葉、千葉東、県立船橋、東葛飾、県立柏、佐倉、佐原、匝瑳、成東、長生、安房、木更津

イ 数学科主任（60名）

現役出願者が25名以上いる学校（部会に登録している私立学校を含む）の数学科主任

(3) アンケート項目1（受験生に質問）

ア 受験生全体を対象に質問

- ・数学の受験型、志望学部
- ・「数学Ⅰ・A」の得点、「数学Ⅱ・B」の得点
- ・「共通テスト」の利用目的
- ・「共通テスト」以外に数学で受験する予定の有無
- ・マークシート形式の模試の受験回数（3年次）
- ・「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ・B」の得意・苦手とする項目

イ 「数学Ⅰ・A」の受験生を対象に質問

- ・選択した問題
- ・全体を通して問題の程度（難易度）
- ・解答時間について
- ・受験対策として、学校の授業や補習だけで十分だと思うか
- ・各問題の難易度、各問題の正答率
- ・時間がかかってしまった問題

ウ 「数学Ⅱ・B」の受験生を対象に質問

- ・選択した問題
- ・全体を通して問題の程度（難易度）
- ・解答時間について
- ・受験対策として、学校の授業や補習だけで十分だと思うか
- ・各問題の難易度、各問題の正答率
- ・時間がかかってしまった問題

エ 「数学」全般について、数学を受験した生徒を対象に質問

- ・数学の勉強を、受験勉強として意識して始めた時期
- ・学校の授業で、数学Ⅲを履修したか
- ・受験科目として、数学Ⅲを必要としているか
- ・「共通テスト・数学」の対策を意識して始めた時期
- ・「共通テスト・数学」について（複数回答可）

- ・「共通テスト・数学」について（自由記述）
 - ① 学校での「共通テスト・数学」の対策として効果的だったこと
 - ② 学校での「共通テスト・数学」の対策としてやってほしかったこと
 - ③ 自分自身や予備校等で「共通テスト・数学」の対策として効果的だったこと
 - ④ 「共通テスト・数学」の具体的な感想

(4) アンケート項目2（数学科主任に質問）

- ・「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ・B」の問題全体について（難易度、問題量、解答時間、出題のバランス）
- ・「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ・B」の問題全体について、学校の授業や補習だけで十分だと思うか
- ・「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ・B」の各問題について（難易度、計算量、思考力）
- ・「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ・B」の各問題について、学校の授業や補習だけで十分だと思うか
- ・「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ・B」の選択問題による難易度の差についてどうか
- ・「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ・B」の問題全体に対して、意見・感想（自由記述）
- ・「共通テスト」の対策としてどのようなことを行っているか（自由記述）
- ・「共通テスト」の問題について、意見・感想・希望（自由記述）
- ・共通テストについて（自由記述）

3 アンケート結果（受験生）

(1) アンケート回収数

2,713 ※ 昨年度の回収数 2,970

(2) 受験生全体を対象に質問

ア 数学の受験型（有効回答数 2,560）

受験生の 82.4%が数学を受験した。受験生のうち 73.1%が「数学Ⅰ・A」と「数学Ⅱ・B」の両方を、8.2%が「数学Ⅰ・A」のみを受験している（図1）。

イ 「共通テスト」の利用目的（有効回答数 2,498）

国立大学の受験で共通テストを利用すると回答した割合が全体の 63.2%であった。また、71.9%の受験生が私立大学の共通テスト利用入試を受験していると考えられる（図2）。

図1 数学の受験型

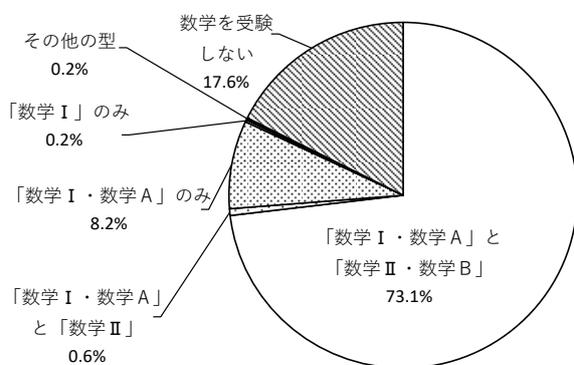


図2 共通テストの利用目的

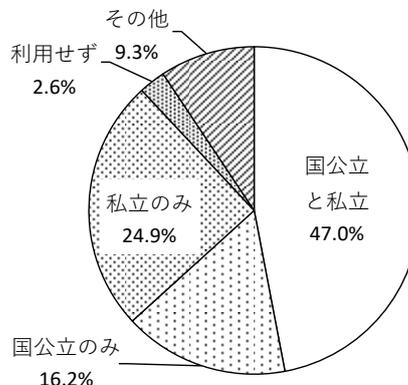


表1 共通テスト以外の受験で数学を利用する予定（志望学部別）

ウ 「共通テスト」以外の受験で数学を利用する予定

（有効回答数 2,387）

工学系と医・歯学系で、共通テスト以外の受験で数学を「利用する」の割合が 90%を上回った（表1）。また、理系の中でも看護・医療系は、「利用しない」と回答した割合が高く、5割を超えた。

文系では、経済・経営・商学系のおよそ半数の受験生が、「利用する」と回答している。

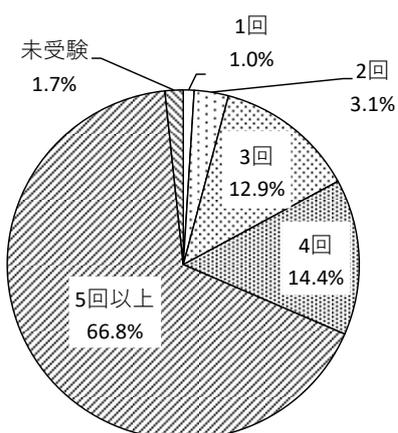
注) 志望学部の「その他」とは芸術系、体育系など理系・文系の区別がつかない学部のことである。

注) 全受験生における志望学部別の割合は図7を参照。

志望学部	利用する	利用しない
1 理学系	87.6%	12.4%
2 工学系	93.1%	6.9%
3 医・歯学系	92.6%	7.4%
4 薬学系	84.8%	15.2%
5 農・獣医学系	78.5%	21.5%
6 看護・医療系	45.9%	54.1%
7 その他の理系	81.3%	18.7%
8 経済・経営・商学系	51.0%	49.0%
9 法・政治学系	34.3%	65.7%
10 その他の文系	23.3%	76.7%
11 その他	27.2%	72.8%

エ マークシート形式の模試（3年次）の受験回数（有効回答数 2,503）

図3 受験回数



3年次では「5回以上」が66.8%を占めており、ほとんどの受験生が模試を複数回受験している（図3）。志望学部による受験回数に大きな違いは見られない（表2）。また、模試の受験回数と得点の関係では、受験回数5回以上と4回以下で得点層の割合に大きな違いはないことがわかる（表3）。

表2 3年次受験回数（志望学部別）

志望学部	5回以上	4回以下
1 理学系	67.6%	32.4%
2 工学系	68.4%	31.6%
3 医・歯学系	72.9%	27.1%
4 薬学系	78.2%	21.8%
5 農・獣医学系	68.8%	31.3%
6 看護・医療系	72.4%	27.6%
7 その他の理系	71.3%	28.7%
8 経済・経営・商学系	66.8%	33.2%
9 法・政治学系	65.7%	34.3%
10 その他の文系	67.6%	32.4%
11 その他	56.8%	43.2%

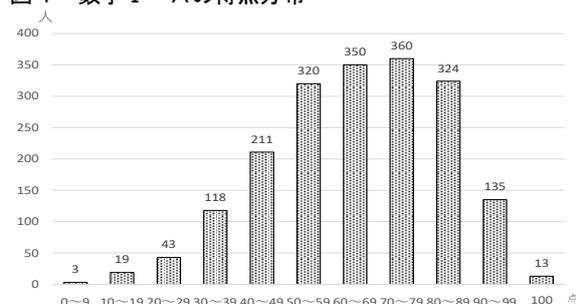
表3 受験回数（得点別）

点	数学Ⅰ・A		数学Ⅱ・B	
	5回以上	4回以下	5回以上	4回以下
0～9	0.2%	0.2%	0.4%	0.5%
10～19	1.3%	0.3%	2.6%	2.9%
20～29	2.7%	1.2%	3.2%	4.4%
30～39	5.9%	7.1%	6.9%	5.1%
40～49	11.1%	11.2%	6.3%	7.3%
50～59	16.4%	17.9%	10.3%	10.5%
60～69	19.6%	15.9%	14.4%	14.8%
70～79	18.7%	19.7%	16.4%	17.1%
80～89	16.8%	17.8%	18.2%	21.6%
90～99	6.8%	7.8%	19.2%	14.5%
100	0.5%	1.0%	2.4%	1.3%

オ 「数学Ⅰ・A」および「数学Ⅱ・B」の得点分布

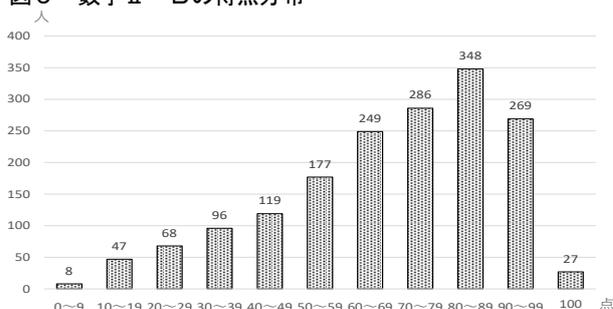
(ア) 「数学Ⅰ・A」の得点分布（有効回答数 1,896）
 (イ) 「数学Ⅱ・B」の得点分布（有効回答数 1,694）

図4 数学Ⅰ・Aの得点分布



アンケート回答者平均点 65.1 点
 アンケート回答者平均点 68.7 点

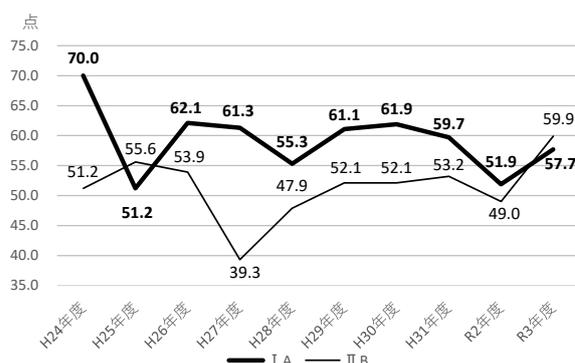
図5 数学Ⅱ・Bの得点分布



(ウ) 参考資料 過去10年間の全国平均点
 (大学入試センター発表)

過去10年間で比較すると、数学Ⅰ・Aはほぼ平年並みの平均点であり、数学Ⅱ・Bは1番高い平均点であった（図6）。

図6 全国平均点の推移（過去10年間）



カ 志望学部

(ア) 志望学部の割合 (有効回答数 2,499)

理系が 52.8%, 文系が 43.8%, その他が 3.4%の割合となった (図 7)。

(イ) 志望学部別平均点 (有効回答数「数学Ⅰ・A」1,960 「数学Ⅱ・B」1,743)

志望学部別に「数学Ⅰ・A」, 「数学Ⅱ・B」の平均点を見ると, 「数学Ⅰ・A」, 「数学Ⅱ・B」共に医・歯学系志望者が一番高くなっている。看護・医療系志望者の平均点が理系他学部に比べやや低い (図 8)。

図 7 志望学部

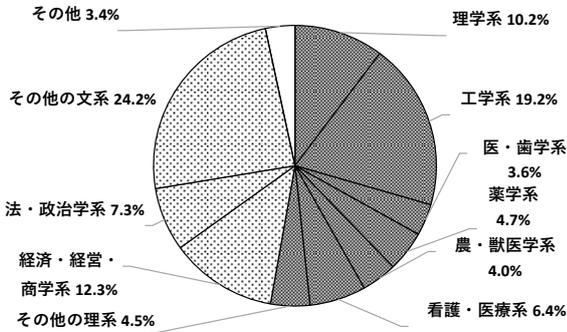
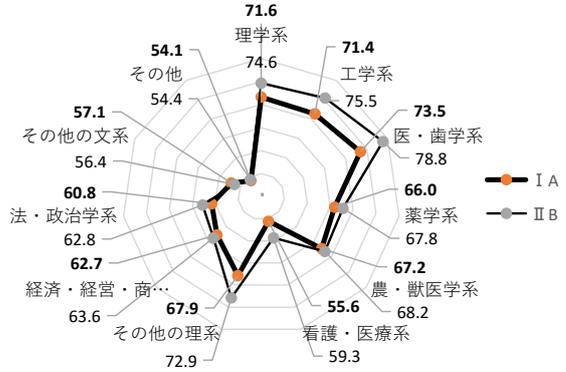


図 8 数学Ⅰ・A, Ⅱ・Bの志望学部別平均点



キ 「数学Ⅰ・A」, 「数学Ⅱ・B」の得意とする項目, 苦手とする項目 (2つまで回答)

得意とする項目として「数学Ⅰ・A」では「2次関数」や「場合の数と確率」, 「数学Ⅱ・B」では「微分・積分」が多く挙げられた。

苦手とする項目として「数学Ⅰ・A」では「図形の性質」や「場合の数と確率」, 次いで「集合と論理」であった。「数学Ⅱ・B」では「ベクトル」, 「数列」, 「三角関数」であった (表 4)。

表 4 得意とする項目, 苦手とする項目

数学Ⅰ・Aの得意項目

項目	回答数
1 方程式と不等式	523
2 集合と論理	98
3 2次関数	668
4 図形と計量 (三角比)	296
5 データの分析	443
6 場合の数と確率	665
7 整数の性質	456
8 図形の性質	229
9 なし	543

有効回答数 1,960

数学Ⅱ・Bの得意項目

項目	回答数
1 式と証明・高次方程式	317
2 図形と方程式	212
3 三角関数	362
4 指数・対数	311
5 微分・積分	680
6 確率分布と統計的な推測	30
7 数列	613
8 ベクトル	353
9 なし	762

有効回答数 1,820

数学Ⅰ・Aの苦手項目

項目	回答数
1 方程式と不等式	124
2 集合と論理	632
3 2次関数	401
4 図形と計量 (三角比)	417
5 データの分析	381
6 場合の数と確率	721
7 整数の性質	548
8 図形の性質	761
9 なし	298

有効回答数 2,141

数学Ⅱ・Bの苦手項目

項目	回答数
1 式と証明・高次方程式	188
2 図形と方程式	365
3 三角関数	563
4 指数・対数	393
5 微分・積分	406
6 確率分布と統計的な推測	281
7 数列	644
8 ベクトル	890
9 なし	396

有効回答数 2,063

(3) 質問A (「数学I・A」の受験生を対象に質問) について

ア 「数学I・A」の選択問題 (有効回答数 2,076)

イ 「数学I・A」の問題ごとの難易度, 正答率

(ア) 「数学I・A」の難易度

(イ) 「数学I・A」の正答率

「数学I・A」の選択問題では「場合の数と確率」と「整数の性質」の組合せを選択した生徒が最も多く, 次いで「場合の数と確率」と「図形の性質」の選択, 「図形の性質」と「整数の性質」の順であった (図9)。

また, 第5問 (図形の性質) について, 90.0%の生徒が「難しい」, 「やや難しい」と回答しており, 昨年度の72.3%と比較して大きく増加した。正答率は「50%未満」と回答した生徒が54.1%であり, 全問の中で最も正答率が低かった (図10, 11)。

図9 数学I・Aの選択問題

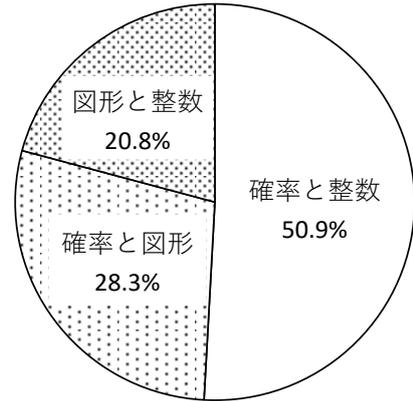


図10 数学I・Aの難易度

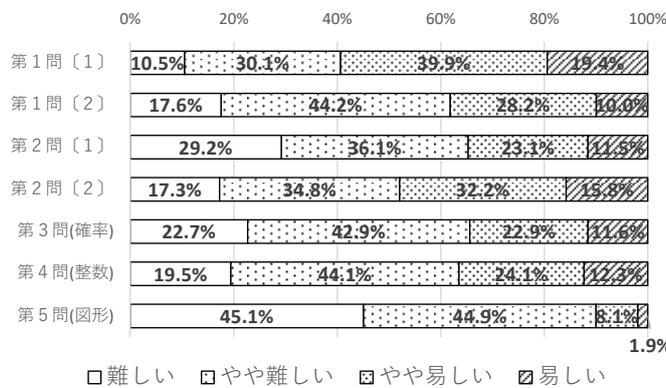
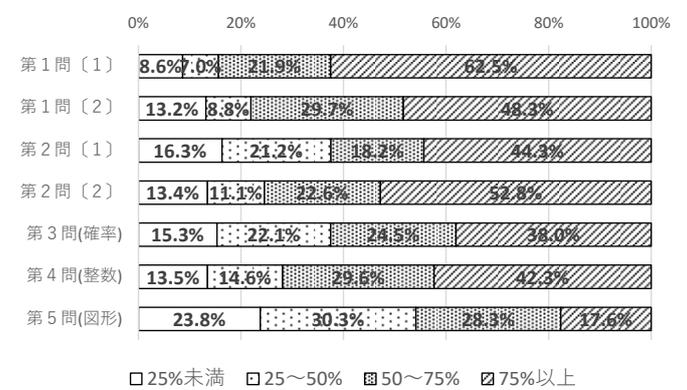


図11 数学I・Aの正答率



ウ 「数学I・A」全体を通して問題の難易度, 解答時間

(ア) 「数学I・A」全体を通して問題の難易度 (有効回答数 2,024)

(イ) 「数学I・A」全体を通して解答時間 (有効回答数 2,006)

「難しい」, 「やや難しい」と回答した受験生が77.7%であり, 一昨年度の82.4%, 昨年度の90.8%より減少した (図12, 14)。また, 解答時間が「少ない」, 「やや少ない」と回答した受験生が87.1%であり昨年度並みであった (図13)。

図12 数学I・Aの問題の難易度

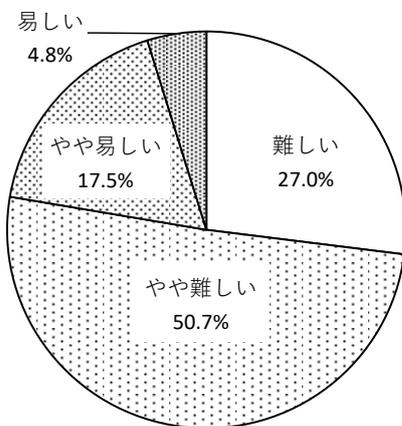
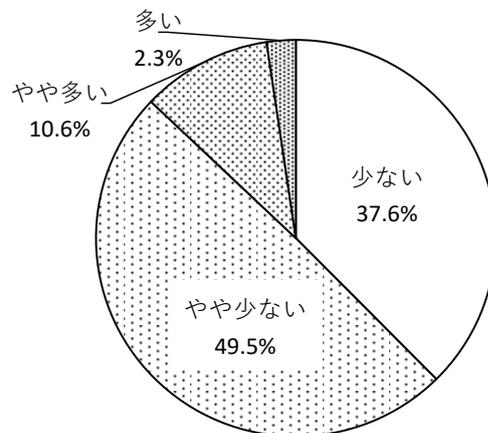


図13 数学I・Aの解答時間



(ウ)「数学Ⅰ・A」で時間がかかった問題（複数回答可）

必答問題では第2問〔1〕（2次関数）の割合が最も高く、選択問題では第5問（図形の性質）の割合が最も高かった（表5）。これは必答問題と選択問題のそれぞれにおいて、「難しい」、「やや難しい」の割合が高くなった結果と一致している（図10）。

(エ)「数学Ⅰ・A」全体を通して問題の難易度（年度別比較・4年間）

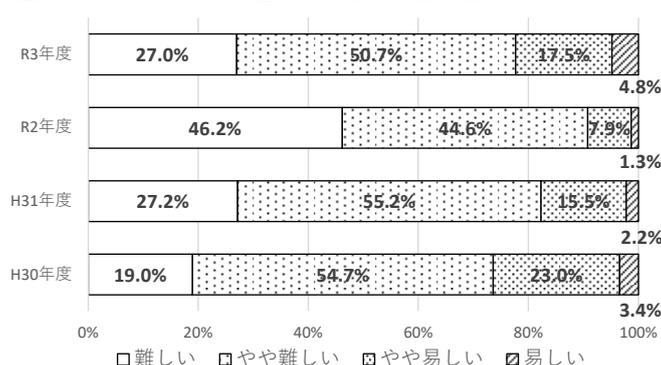
問題の難易度の感じ方は、昨年度までは年々「難しい」、「やや難しい」と回答する割合が大きくなってきていたが、今年度は「易しい」、「やや易しい」の割合が増えた（図14）。

（参考）アンケート回答者の「数学Ⅰ・A」の平均点は、平成30年度69.8点、平成31年度67.7点、令和2年度60.3点、令和3年度が65.1点であった。

表5 時間がかかった問題

	回答数	受験者数	割合
第1問〔1〕	380	2076	18.3%
第1問〔2〕	643		31.0%
第2問〔1〕	923		44.5%
第2問〔2〕	522		25.1%
第3問	605	1644	36.8%
第4問	383	1488	25.7%
第5問	519	1020	50.9%

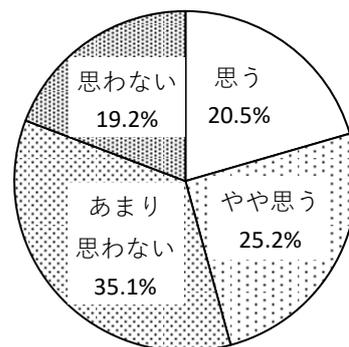
図14 数学Ⅰ・Aの問題の難易度（年度別比較）



(オ)「数学Ⅰ・A」全体を通して学校の授業や補習だけで十分だと思いますか（有効回答数2,005）

「思う」、「やや思う」と回答した割合が、45.7%であり、昨年度より約10ポイント、一昨年度より約1ポイント上がった（図15）。受験生が、難度が下がったと感じたことや、平均点が上がったことが理由だと思われる。また、記述回答の特徴として、日常の事象に絡んだ問題を学校でもっと取り扱ってほしかったといった要望が多かった。

図15 学校の授業や補習だけで十分か



(4) 質問B（「数学Ⅱ・B」の受験生を対象に質問）について

ア 「数学Ⅱ・B」の選択問題（有効回答数1,837）

イ 「数学Ⅱ・B」の問題ごとの難易度、正答率

(ア)「数学Ⅱ・B」の難易度

(イ)「数学Ⅱ・B」の正答率

第4問「数列」と第5問「ベクトル」を選択した割合が92.1%と非常に高い（図16）。

第1問および第2問については、「易しい」、「やや易しい」と回答した割合が昨年度よりも増加し、正答率も昨年度より高くなっている。また、昨年度の選択問題では難易度に大きな差は見られなかったが、今年度については第4問「数列」が易化したと感じる受験生が多かったことが読み取れる（図17, 18）。

図16 数学Ⅱ・Bの選択問題

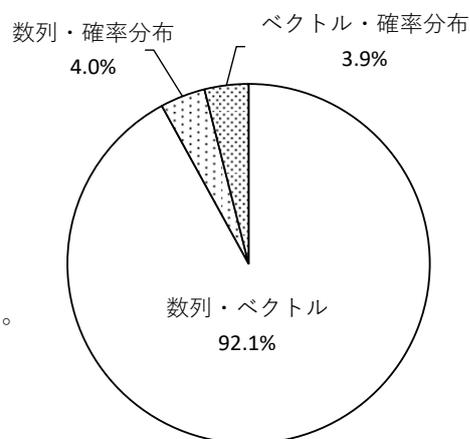


図 17 数学Ⅱ・Bの難易度

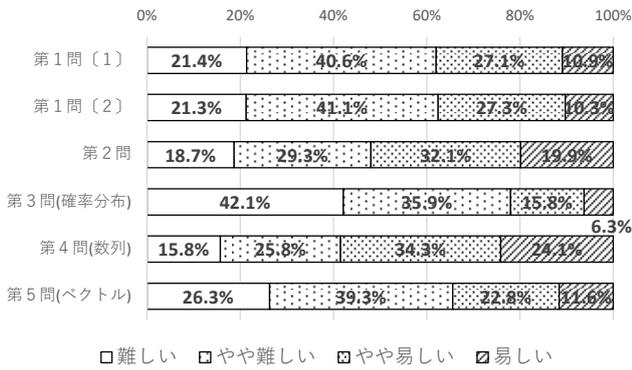
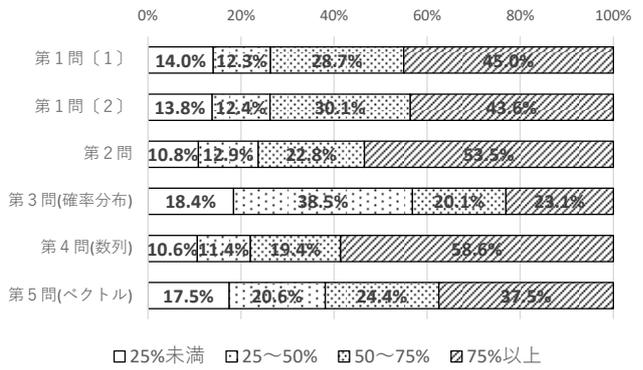


図 18 数学Ⅱ・Bの正答率



ウ 「数学Ⅱ・B」全体を通して問題の難易度、解答時間

- (ア) 「数学Ⅱ・B」全体を通して問題の難易度（有効回答数 1,803）
「難しい」、「やや難しい」と全体の 55.3%が回答した（図 19）。
- (イ) 「数学Ⅱ・B」全体を通して解答時間（有効回答数 1,785）
「少ない」、「やや少ない」と全体の 83.5%が回答した（図 20）。

図 19 数学Ⅱ・Bの問題の難易度

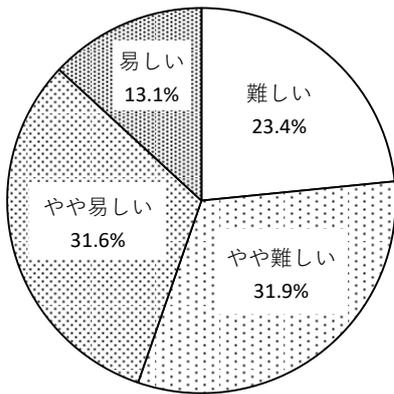
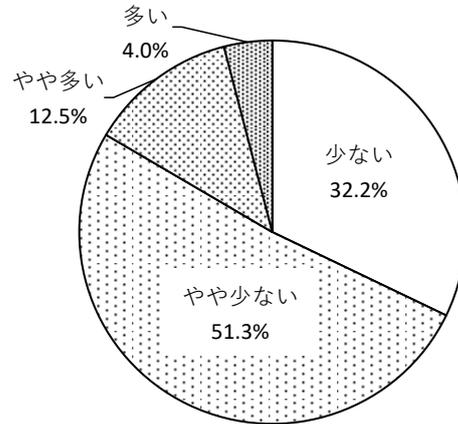


図 20 数学Ⅱ・Bの解答時間



- (ウ) 「数学Ⅱ・B」で時間がかかった問題（複数回答可）
第1問〔1〕が 44.5%，第1問〔2〕が 39.8%と、昨年度（それぞれ 25.6%，25.4%）と比べ増加した。
選択問題に関して、第3問「確率分布と統計」は、受験生は少ないが、42.5%であり、昨年度（8.5%）と比べ大幅に増加した。逆に、第4問「数列」は 25.3%であり、昨年度（44.9%）と比べ減少した（表 6）。

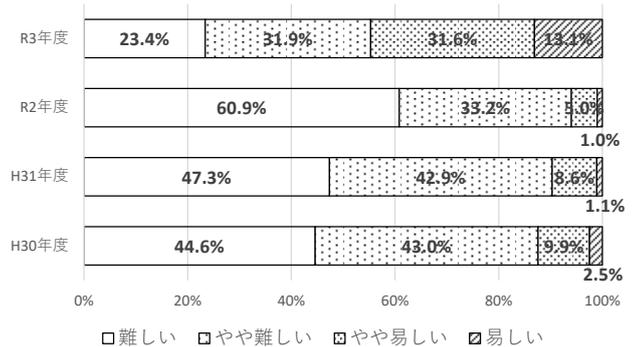
表 6 時間がかかった問題

問題	回答数	受験者数	割合
第1問〔1〕	753	1694	44.5%
第1問〔2〕	674		39.8%
第2問	579		34.2%
第3問	62	146	42.5%
第4問	446	1765	25.3%
第5問	700	1763	39.7%

(エ) 「数学Ⅱ・B」全体を通して問題の難易度

- (年度別比較・4年間)
44.7%の受験生が「易しい」、「やや易しい」と回答し、過去4年の中では割合が大幅に増加した（図 21）。
- (参考) アンケート回答者の「数学Ⅱ・B」の平均点は、平成 30 年度 60.7 点、平成 31 年度 61.6 点、令和 2 年度 57.7 点、令和 3 年度 68.7 点であった。

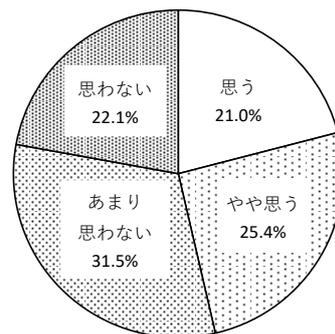
図 21 数学Ⅱ・Bの問題の難易度（年度別比較）



(オ)「数学Ⅱ・B」全体を通して学校の授業や補習だけで十分だと思いますか(有効回答数 1,785)

46.4%の受験生が「思う」、「やや思う」と回答し、昨年よりも約16ポイント増加した(図22)。記述回答には思考力を試すような問題演習や、問題を解く時間を早くするための演習を学校で扱ってほしかったという記述が目立った。また、センター試験と問題傾向が変わっていないと感じた受験生もいた。

図22 学校の授業や補習だけで十分か



(5) 質問C(数学を受験した生徒を対象に質問)について

ア 数学の勉強を、受験勉強として意識して始めた時期(有効回答数 2,306)

56.5%の受験生が3年生の夏休みに入る前に数学の受験勉強を始めている(図23)。

イ 「共通テスト・数学」の対策を意識して始めた時期(有効回答数 2,315)

22.5%の受験生が3年生の夏休みに入る前に共通テストを意識した学習を始めている(図24)。

図23 受験勉強として意識して始めた時期

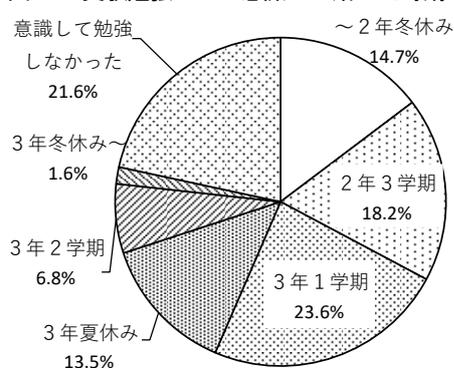
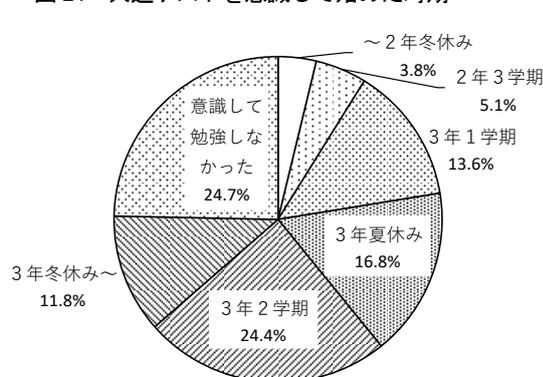


図24 共通テストを意識して始めた時期



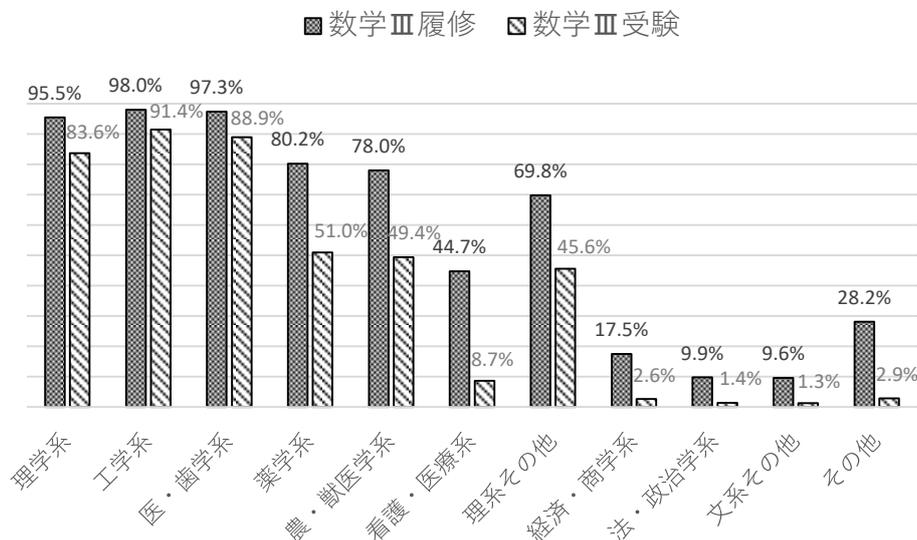
ウ 学校の授業で、数学Ⅲを履修したか(有効回答数 2,755)

「履修」の割合は52.2%で、昨年並みであった。理系志望学部別では、数学Ⅲを履修している割合は「工学系」、「医・歯学系」、「理学系」の順に高く、「看護・医療系」は、数学Ⅲを履修している割合が最も低かった。いずれも昨年同様である(図25)。

エ 受験科目として、数学Ⅲを必要としているか(有効回答数 2,234)

実際に受験科目として数学Ⅲを必要とする受験生は38.0%で、昨年並みであった。理系志望学部別においても昨年と同様に、「看護・医療系」、「薬学系」、「農・獣医学系」において、不要の割合が高くなっており、履修状況と大きな開きが生じている(図25)。

図25 数学Ⅲの履修状況と数学Ⅲの受験使用状況(理系志望学部別)



オ 「共通テスト・数学」について（複数回答可）（有効回答数「数学Ⅰ・A」2,350,「数学Ⅱ・B」2,164）
「数学Ⅰ・A」と「数学Ⅱ・B」とともに、「普段の力が出せた」と回答した割合が昨年度と比べ増加した。また、さらに「数学Ⅱ・B」の「誘導にうまく乗れなかった」と回答した割合は昨年度（39.8%）と比べ減少した。また、受験生の21.5%が「数学A」の選択問題を、試験当日に問題を見てから選択していた。

表7 共通テスト・数学について 数学Ⅰ・A 数学Ⅱ・B

	数学Ⅰ・A	数学Ⅱ・B
普段の力が出せた	27.5%	34.1%
普段の力が出せなかった	33.7%	23.7%
解法がすぐに思いついた	8.3%	10.2%
誘導にうまく乗れた	16.6%	22.4%
誘導にうまく乗れなかった	23.3%	20.5%
計算ミスをした	26.1%	20.3%
公式を思い出せなかった	6.3%	10.7%
マークミスをした	3.7%	3.8%
一つの問題に時間をかけすぎて、取り組むことが出来なかった問題があった	26.5%	21.7%
選択問題は当日に試験の問題を見てから選択した	21.5%	6.3%

カ 学校での「共通テスト・数学」の対策として効果的だったこと（自由記述）

- ① センター試験の過去問、共通テスト用の予想問題演習。【多数】
- ② 学校で配布された対策用プリント。【多数】
- ③ 授業でⅠAⅡBの総復習をしてくださったこと。
- ④ 制限時間を決めて問題演習をしたこと。
- ⑤ 共通テスト形式の演習を扱ってくれたことで、形式に慣れたこと。
- ⑥ 定期試験で毎回長文の問題が出題されていたこと。
- ⑦ 三年になってから統計を復習してくれたこと。
- ⑧ 基礎をしっかりと説明してくれた。
- ⑨ 定理の証明を授業で復習してくださったので、その過程を応用できたこと。
- ⑩ 問題集1冊の課題提出があったこと。
- ⑪ 3年次の選択で選んだ数学Bの授業。
- ⑫ 単なる解法の暗記ではなく、理論を知ること。
- ⑬ 発展的な内容が出たときに、数Ⅲで教えていただいた内容が糸口になることがあった。
- ⑭ もともと学校の授業を頼りにせず勉強を進めているのでわかりません。

キ 学校での「共通テスト・数学」の対策としてやってほしかったこと（自由記述）

- ① 過去問を解く。【多数】
- ② 特になし。【多数】
- ③ 時間を意識して解く。時間を短くして解く。【多数】
- ④ 詳しい解説をもっとしてほしかった。【多数】
- ⑤ 分野別の演習をしてほしい。【多数】（「データの分析」「確率」「ベクトル」「数列」が多数。）
- ⑥ 十分にやってもらえた。【多数】
- ⑦ 思考力を必要とする問題や会話形式の演習問題をもっと扱ってほしかった。【多数】
- ⑧ 資料の読み取り問題をもっとたくさん扱ってほしかった。
- ⑨ 共通テスト直前は数学Ⅲではなく共通テストの演習を扱ってほしかった。
- ⑩ 一つの問題について複数の解法で解くような授業。
- ⑪ 学校には特に大学受験対策を求めている。
- ⑫ 選択問題の選択肢を増やすためにも、確率分布と統計を授業でやってほしかった。
- ⑬ 課題を出さないでほしかった（こっちに全部任せてほしかった）。

ク 自分自身や予備校等で「共通テスト・数学」の対策として効果的だったこと（自由記述）

- ① 模試・実践問題・過去問演習。【多数】
- ② 教科書・参考書を0から読み直す。
- ③ センター試験の過去問を実際の試験時間60分よりも短い50分で解く演習。
- ④ 大問別の問題集を解いて大問ごとに対策をした。
- ⑤ データの分析の総復習。
- ⑥ 試行調査の問題とその類題（市販されている問題集）をたくさん解いたこと。
- ⑦ センター試験の過去問を毎日ひたすら解いた。
- ⑧ 公式の成り立ちやコラムなどを教科書で読み直したこと。
- ⑨ 新しい出題形式になるため、共通テスト専用の対策（時間配分等）ができたこと。
- ⑩ できない問題を集中的に、問題集を用いて解いたこと。
- ⑪ 一、二年の範囲を軽く復習できるよう、自粛期間中に映像授業を配信してくれたこと。
- ⑫ 嫌いな分野をやる前に好きな分野をやってモチベーションを上げる。
- ⑬ 全て塾でいろいろな計算のプロセスをしっかりと解説してくれるので、共通テストの「原理を追求する問」に関してとても有効だった。
- ⑭ 短時間で会話文の内容を掴めるようにする練習。

ケ 「共通テスト・数学」の具体的な感想（自由記述）

<数学Ⅰ・A>

- ① 思っていたよりかは簡単だった。【多数】
- ② 力が出せたと思う。
- ③ 問題文が長く、理解するだけで時間がかかってしまった。
- ④ 第2問の100m走の問題は、問題設定を理解するだけでも時間がかかった。
- ⑤ やらうと思っていた「図形の性質」が難しかったので「整数の性質」と悩み時間を使ってしまった。
- ⑥ 試行調査や模試に似ていて良かった。
- ⑦ 文章量はきちんと処理すればむしろヒントにもなっていた。
- ⑧ 絶対にやるはずがないと思っていて、しかも直前に友達と話していたのに、数Ⅰを解いてしまった。
- ⑨ 日常の内容に関する問題が多く、普通の問題集だけでは対応できない。
- ⑩ 確かに思考力は求められていたと思うが、そこまで難しくはなかった。
- ⑪ 確率は、途中の問題でつまずくと、それ以降の問題ができなくなるのでたくさん失点した。
- ⑫ 第5問の問題がすごく難しかった。
- ⑬ データの分析の問題は思っていたよりかは簡単だった。
- ⑭ 基礎的な知識だけではとても不十分だと感じた。
- ⑮ 答えにたどり着くまでの過程が例年に比べ長く感じた。

<数学Ⅱ・B>

- ① 自分の実力が出せた。
- ② 問題自体はそれほど難しくない。時間は少し足りなかった。【多数】
- ③ 日常的な事象に関連した問題が出題されると思ったが、想像よりもセンター寄りだった。
- ④ 数列もベクトルも誘導に乗ることができれば簡単だったと思う。
- ⑤ 試行調査と比べると平易な問題が多かった。
- ⑥ 難しかったが、二次試験対策をしていればある程度対応できたと思う。
- ⑦ 大問によって難しさに差がある。
- ⑧ 時間を気にしすぎたせいか、計算ミスが多かった。
- ⑨ 誘導に乗りやすかった。
- ⑩ 今までのセンターである程度とれていれば十分対応できる内容だった。
- ⑪ 見たことのない問題が結構多くて、少し戸惑った。
- ⑫ 思った以上に冷静でいられなかった。
- ⑬ とにかく時間が足りない。もともと数学が得意な人にとってはさらに解きやすく、苦手な人にとってはさらに難しくなったように思う。
- ⑭ ただの計算力ではなく思考力が必要。すぐに解法が思いつくというより、その場で自分の数学力をフルにつかって問題の意味を理解し解法を導き出す問題。

4 アンケート結果（数学科主任）

(1) アンケート回収数

60名 ※ R2年度51名, H31年度56名, H30年度61名

(2) 「数学Ⅰ・A」の問題全体について

全国平均点 57.7点 (昨年度 51.9点)

ア 難易度

「適切」という回答が58.3%と最も多く、次いで「やや難しい」という回答が26.7%であった。

イウ 問題量・解答時間

問題の量は「多い」、「やや多い」という回答が合わせて58.3%、解答時間は「少ない」、「やや少ない」という回答が合わせて56.6%あり、共通テストとなり試験時間が延びたものこの内容であれば時間はまだ足りない、と考えている教員が多かった。

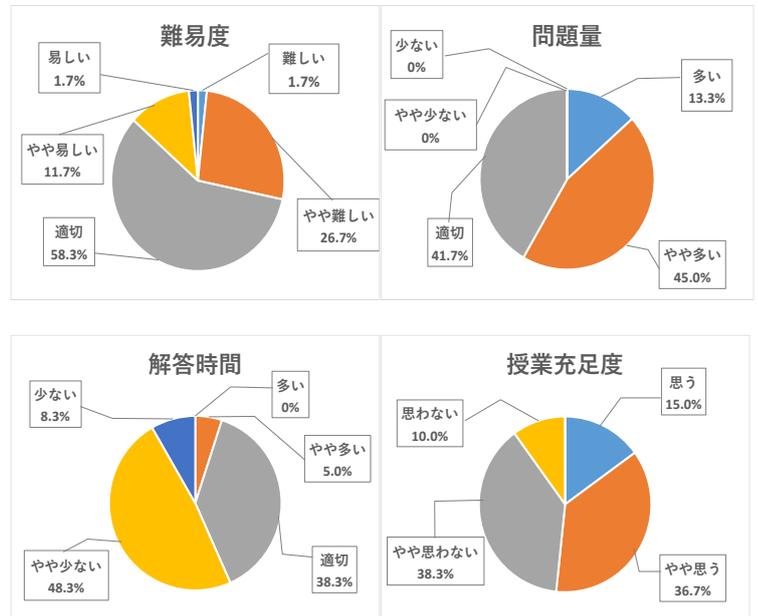
エ 授業充足度

「思う」、「やや思う」という回答と「思わない」、「やや思わない」という回答はおよそ同数で、各学校の実情によって感じ方が分かれる結果となった。不十分な理由として、「データの分析」において教科書で扱っている問題との形式の違いがあると考える意見が複数見られた。

オ 全領域のバランス

88.3%が「適切」と回答している。それ以外の意見として、「集合と論理」の分野が取り扱われていない、という回答が複数見られた。

図26 「数学Ⅰ・A」の問題全体



(3) 「数学Ⅱ・B」の問題全体について

全国平均点 59.9点 (昨年度 49.0点)

ア 難易度

「適切」という回答が51.7%と最も多く、次いで「やや易しい」という回答が35.0%であった。

イウ 問題量・解答時間

問題量については「適切」が68.3%、解答時間については「適切」が71.7%と、「適切」がともに過半数を占めた。

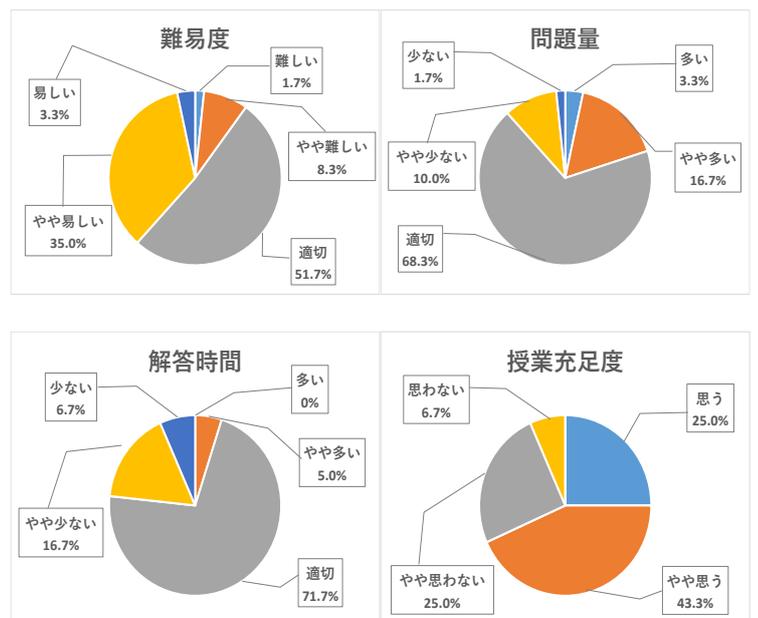
エ 授業充足度

「思う」、「やや思う」という回答が合わせて68.3%で、「思わない」、「やや思わない」という回答を上回った。不十分な理由として、「三角関数」における三角関数の合成や、「数列」における漸化式の演習が授業内では不足していた、等の意見が見られた。また、誘導に乗ってしまえば理解していなくても解くことができる、といった意見もあった。

オ 全領域のバランス

96.7%が「適切」と回答している。ほぼ例年通りの回答である。

図27 「数学Ⅱ・B」の問題全体

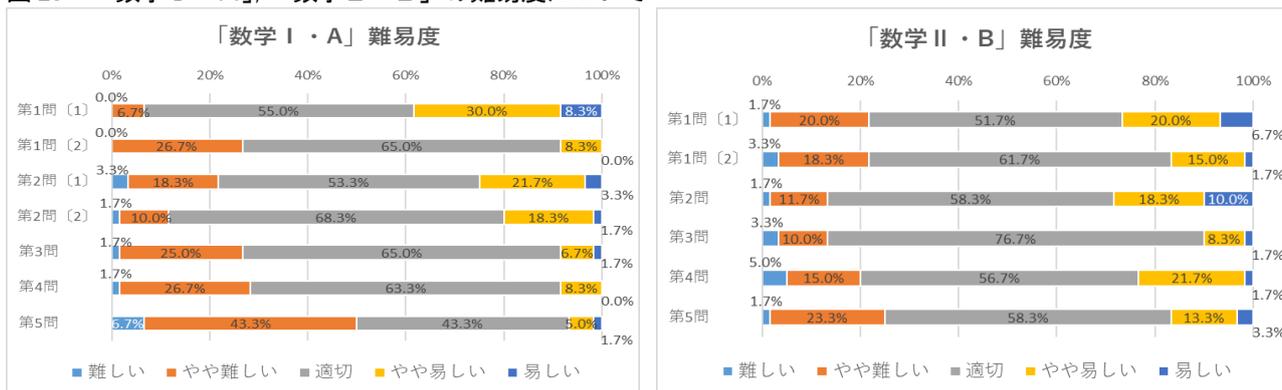


(4) 問題別難易度について

【**数学Ⅰ・A**】第1問から第4問まで「適切」という回答が最も多かったのに対し、第5問（図形の性質）は「適切」と「やや難しい」という回答が同数であった。第3問（場合の数と確率）と第4問（整数の性質）も「難しい」、「やや難しい」という回答が「易しい」、「やや易しい」という回答を上回り、数学A分野は全体的に難しく感じた教員が多かった。また、第2問〔1〕（2次関数）では「難しい」、「やや難しい」という回答が合わせて21.6%、「易しい」、「やや易しい」という回答が合わせて25.0%であり、教員によって意見が分かれた。

【**数学Ⅱ・B**】すべての問において「適切」という回答が半数以上であった。その中で、第2問（微分・積分の考え）は「易しい」、「やや易しい」という回答が「難しい」、「やや難しい」という回答を最も大きく上回った。また、「数列」において、誘導に従えば解けるので「数列」としての難易はわからない、という意見があった。第5問（ベクトル）は、「難しい」、「やや難しい」という回答が「易しい」、「やや易しい」という回答を上回った。

図 28 「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ・B」の難易度について

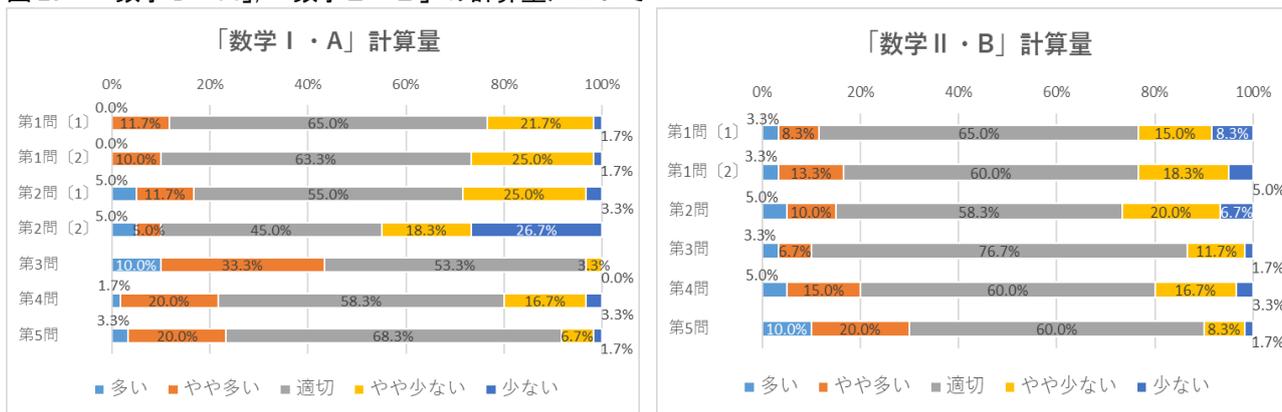


(5) 問題別計算量について

【**数学Ⅰ・A**】第1問から第2問の数学Ⅰ分野では、「少ない」、「やや少ない」という回答が「多い」、「やや多い」という回答を上回った。特に、第2問〔1〕（2次関数）と第2問〔2〕（データの分析）について、本文を読むことに多くの時間を取られる、という意見が複数あった。一方で、第3問から第5問の数学A分野では、「多い」、「やや多い」という回答が「少ない」、「やや少ない」という回答を上回った。特に第3問（場合の数と確率）では、条件付き確率や（4）の計算が多い、という意見が見られた。

【**数学Ⅱ・B**】すべての問において、「適切」という回答が半数以上だった。例年と比較すると高い割合となった。その中でも、第5問（ベクトル）は「多い」、「やや多い」という回答が合わせて30.0%と比較的多く、正五角形の対角線の長さを用いた計算がやや煩雑であった結果と思われる。

図 29 「数学Ⅰ・A」、「数学Ⅱ・B」の計算量について

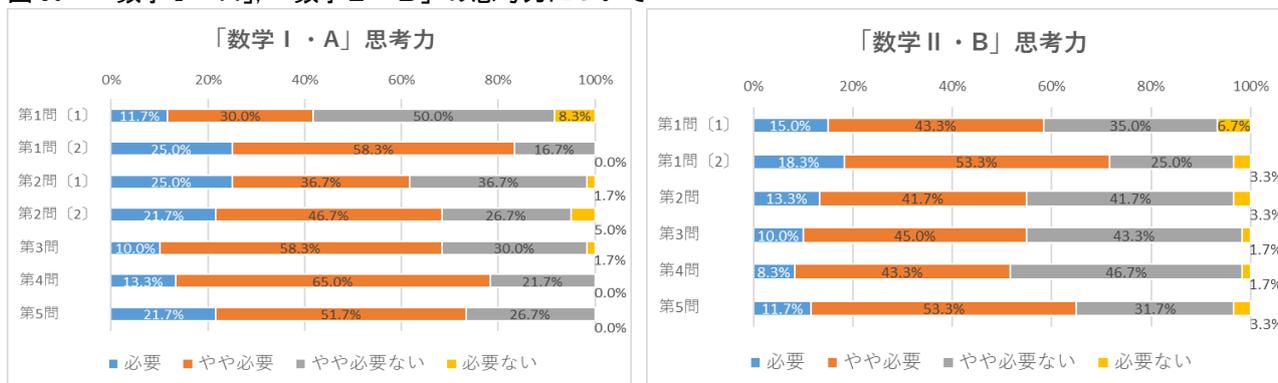


(6) 問題別思考力の必要性について

【**数学Ⅰ・A**】第1問〔2〕（三角比）で、「必要」、「やや必要」という回答が合わせて83.3%と最も多かった。前半部分は以前のセンター試験に似ているが、（2）から思考力を必要とすると考えた教員が多かったと思われる。また、第3問（場合の数と確率）、第4問（整数の性質）、第5問（図形の性質）で「やや必要」という回答が半数以上あった。特に第4問は「やや必要」という回答が65.0%あり、（3）、（4）の反時計回りも含めた石の位置の問題に思考力の必要性を感じたと思われる。

【数学Ⅱ・B】第1問〔2〕（指数関数・対数関数）で、「必要」、「やや必要」という回答が合わせて71.6%と最も多かった。後半の会話文問題に思考力の必要性を感じる教員が多かったと思われる。第4問（数列）は「必要」、「やや必要」という回答と「必要ない」、「やや必要ない」という回答がおおよそ同数で、教員によって意見が分かれた。その中で、誘導が丁寧すぎて思考力を問うことが出来ていない、という意見があった。

図30 「数学Ⅰ・A」、 「数学Ⅱ・B」の思考力について

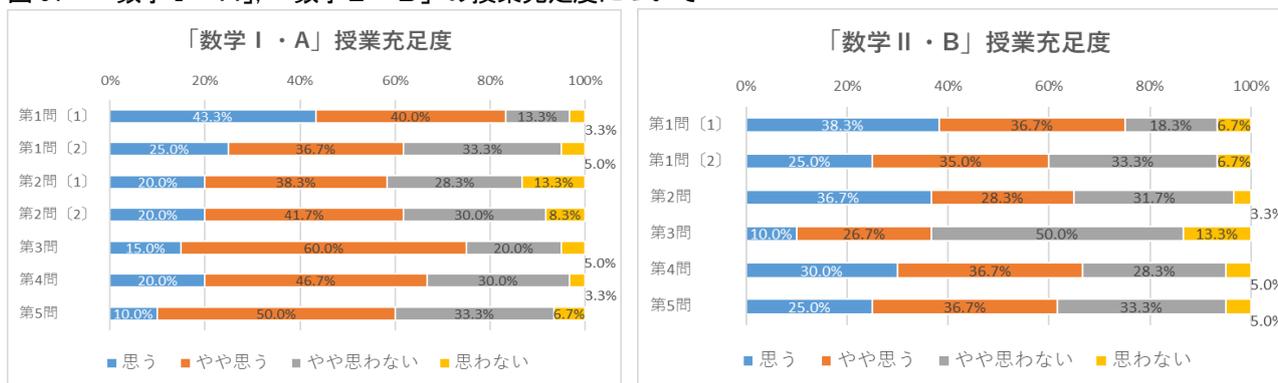


(7) 問題別授業充足度について

【数学Ⅰ・A】「思う」、「やや思う」という回答が全て半数以上であった。また、「思わない」、「やや思わない」という回答の中で、第2問〔1〕（2次関数）は具体的な距離や時間を求める問題に対してあまり取り扱っていない、という意見があった。さらに、第1問〔2〕は教科書の内容と共通テストの問題にギャップを感じる、という意見が複数あった。

【数学Ⅱ・B】「思う」、「やや思う」という回答が、第3問（確率分布と統計的な推測）を除き半数以上であった。第3問に関しては授業で扱っていない、という意見が複数あった。

図31 「数学Ⅰ・A」、 「数学Ⅱ・B」の授業充足度について



(8) 記述回答について (抜粋)

ア 「数学Ⅰ・A」の問題全体について

- ・個人的には面白いな、という感想を持ったが変数変化でどのような違いが出てくるのか、ということだけが目新しくなり、他はさほど変化はない。考察→結論（一般化）という作業を授業で取り入れていこうと考えさせられた。
- ・問題量と試験時間（前年のセンターより10分増）がうまい具合になっていたと思う。時間内に解くためのスピードは、計算力だけでなく思考力も必要であるため、普段の授業をどのように生徒が受けているか、考えながら受けているかなど大切になってくると考えさせられました。とても良い問題構成だったと思います。
- ・問題の難易度が高なくても、例年より読ませる問題が多くなっていると感じた。数学の計算能力を測るだけではなく、読解能力も必要になってきたと感じた。
- ・試行調査に比べて、量（会話文など）が少なくなり考える時間が取れたと思う。
- ・文章が少し多いですが、良い問題ばかりだと思いました。
- ・上位層からしてみれば、センターより簡単である。中下位層（数学を暗記と認識している生徒）にはやりづらいものになった。

- ・共通テストの初回ということもあり、全体的に難易度、計算量は抑えめに作問されている、という印象である。必答問題、特に、第2問は共通テストの特色がよく表れた問題だと感じる。日常の事象を、高校数学におとしこんでいる。データの分析は、近年のセンター試験の傾向のとおり、資料を読み込む問いが目立ち、読解力が相変わらず求められると思う。
- ・初の共通テストでしたので、出題内容が気になっていました。問題文の表現がややこしく、思考力を解いているのかと言われると少し疑問に感じました。
- ・読む力・考える力を問われている分、時間が長くなったのは非常に良かった。
- ・近年のセンターと比べかなり難化したと感じたが、平均点が思いの外高く、問題量に対して解答時間が適切であったのではないかと考える。
- ・問題を読ませる、考えさせる方法としてはこの傾向の変化はいいと思うが、時間が短く本当にそれができるか疑問がある。
- ・センター試験と比べて、10分時間が増えたとはいえ、70分で解答するには時間が足りないと思う。特に、思考力を問うのであれば、考えるための時間が必要になる。時間を与えずに考えることはできないのだから、今回のような量の問題を解かせるということは、速答する力を問うことになり、主旨に反することになると思う。
- ・1問1問が簡単で時間がギリギリ、もしくは足りないという生徒が多いのではないかと思います。
- ・70分は長い。大問5つのうち、3つが会話形式なのは驚いた。コロナ禍であり、会話は慎むべき。
- ・時間不足になる生徒もいると思うがテストとして機能するためには適切な設定時間だと思います。(処理能力をはかるテストにならぬ様にして欲しいですが・・・)
- ・文章を読みこなしながら解くことを考えると、多くの受験生には時間が少ないと思う。
- ・文章が多く、問題が読みにくい。情報を整理して解かなくてはいけなく、はたして「数学」の教科、科目で問うことなのか・・・。
- ・第2問〔1〕は表や式から大体の予想がついてしまう。答えの選択肢もすぐに見当がつく内容である。
- ・第2問〔1〕について、分数表記と小数表記が混在しているのは、数学の問題として適切でない。枠内から解答を選ぶ選択肢の問いなど、まぐれで正解してしまう形の出題は、数学には合わない。第4問サなど、たまたま例を挙げてみたらできた、など、本来の出題者の意図と異なる形で解けてしまう(しかも数学の思考力を必要としない)問いが多く見られる。
- ・第1問は今までのセンターを踏襲する形であった。個人的にはもっと試行調査に近づけてもよかったと思われる。やや易しい感じを受験生に与え、肩すかしだった生徒も多かったのではないだろうか。来年度の共通テストでは、公式の証明や原理原則をきくような内容を期待したい。(センターの過去問で十分、という印象は与えないようにしたい。)
- ・数学的な考え方を問うというよりは、日本語読解に時間がかかるため本質的なことを見失っていると思う。太郎、花子のくんだりとかは授業の活動でやることであって、問題で確認すべきことではない。この能力を見たいのであれば、他の方法はいくらでもある。統計の問題は、不自然なので、読むのに時間がかかりすぎます。
- ・難易度は標準的だが、新しい傾向で問題文が長く、生徒は問題文を理解するのに時間がかかっている。人によっては理解できず、終わっている気がする。これは数学の力をはかるためのテストなのか？
- ・第2問〔2〕データの分析のページ数が多すぎる。何度もページを行き来しなければならず、非常に解答しづらい。せめて複数のページを要するならば、見開きで分析ができる問題設定にすべきである。
- ・大問3、4は同じような計算を、くり返しさせる問題が多く見られた。全体的に誘導が多い分、思考力を必要とせず解けるのではないかと感じた。
- ・年度によって、問題の難易度に大きな差が出ないようにして欲しい。
- ・難易度というより文章量の差があるように感じます。各出版社や予備校の予想問題の影響かもしれませんが、理系の生徒が文章量を多いことを理由に確率を選ばない傾向にあります。
- ・予想対策問題をあまりこなさなかった生徒には、非常に解きにくく感じられたと思う。コロナが悪化せず、2次試験を是非とも実施してほしい。(共通テストだけでの判断とならないでほしい。)

イ 「数学Ⅱ・B」の問題全体について

- ・例年に比べ、誘導が丁寧である。
- ・思考力を必要とする問題や基礎的な内容の深い理解が必要な問題が多く出されていたと思う。
- ・やや問題の量は多めだと思うが、難易度はちょうどよかったと感じる。
- ・文章、文字が多いと感じた。回答群から答えを選択する問題が多く、新しい感じはした。点数はとりやすいと思う。

- ・全体的に旧センター試験に寄せた問題であったと思われる。第2問は適切なグラフを選ばせるなど、試行調査のような出題も見られたが、数学Bの方は逆に解きやすくなっていたため、全体的に解きやすかったのではないかと推測される。
- ・例年に比べ、計算が少なく、60分以内に余裕で終わった。全国平均でもわかるが、得点が本校においても、 $I \cdot A < II \cdot B$ であった。
- ・第4, 5問は計算は多かったが誘導がすごく丁寧だったので難しくは感じなかった。
- ・賢く解けば高得点がとれる問題だと思いました。数学I・Aに比べると、高得点をとりやすかったのではないかと思います。
- ・良い問題でバランスが良かったと思います。
- ・全体を通してリード文や誘導が丁寧な印象を受けました。
- ・I・A同様、II・Bも難易度、計算量ともに抑えめな構成とを感じる。必答問題では、参考書などで扱われるような(テクニカルな?)内容ではなく、教科書にのっているその分野の原理・概念の理解力を問うような内容に感じる。
- ・センターより解きやすい。
- ・解答の流れが示されており、解きやすい印象。
- ・特に気になることはない、良い問題だったと思います。
- ・もう少し難しく、思考力を問う問題がもっとほしい。数学が苦手な受験生にとっても解きやすい問題だと思いました。
- ・全問通して、解答を得るまでの途中の文章を読んで、意図を理解する時間が必要。選択問題などはかつてのセンター試験のような問題でも良いと思われる。
- ・選択肢が多い問題がややストレス。全体的に「解く」よりも確かに「わかっているか?」を聞かれている感覚はした。
- ・I・Aもそうであったが少しくどい印象も受けた。数列やベクトルなどは計算量も少なくI・Aに比べると面白さに欠けた。
- ・問題の文章量は増えたが、計算量は減り、多少、取り組みにくい設問もあったとを感じる。また、会話形式が、もう少し多く出題されるのではと思った。
- ・近年のセンター試験と比べ、非常に解きやすい問題が多く、次年度以降の受験生にとっては参考にならないと感じる。「数列」は例年のセンターとあまり変わらない題材であったように思う。
- ・数I・Aの意見・感想とほぼ同じである。よくわからないけど、流れに乗ったら解ける、ような無理な(強引な)誘導が多く、受験生の思考力を逆にはかれなくしている。ベクトルは本当にひどい。単なる解答の穴埋めと化している。
- ・目的が不明確(最終的に何を求めさせたいかがわからない。)思考力をはかる以前に生徒の思考が止まってしまいそうな問題である。具体的な計算がもう少し欲しい。
- ・数I・Aと同様に70分で思考力を問う問題を増やして欲しい。
- ・第1問の〔2〕の内容はハイパボリック関数の問題であり、誘導がついているとはいえ、加法定理を扱うことは、文系の生徒にとっては難しすぎると思う。
- ・積分をもう少し出題したほうが良い気がします。
- ・ベクトルの内積の問題で、正十二面体の性質を知っていれば難易度がかなり下がってしまうので、特殊な知識の差によって問題の善し悪しが分かれるものはさけてほしいと思った。
- ・選択者が極めて少ない統計分野の問題を第3間にもってくることは解答用紙への記入ミス等を引き起こす原因になりかねないので、従来通り統計分野は第5間に配置すべき。
- ・「確率分布と統計的な推測」については、今後も選択問題での出題としてほしい。

ウ 「大学入学共通テスト」の対策について

- ・選択授業内での演習。(多数)
- ・数学Ⅲ終了後の授業内での演習。(多数)
- ・放課後、長期休業中の補講。(多数)
- ・共通テスト対策の模試とその演習。(多数)
- ・数列の等比数列の漸化式を作っていくだけの演習のように、考え方をくりかえし確認する補習は、生徒の理解が高かったので効果があったのではないかと考える。また、求値できない問題の補習は個人的に効果がでるのではないかと考える。
- ・変数変化に対する現象の変化について細かく考えさせる。理解より理屈を優先する授業を一部で実施。

- ・補習は「共通テスト対策講座」として、1年生の夏休みから、継続的に3年間行われている。基礎学力の定着が重要である。生徒に応用問題集を買わせ、すき間時間に自分で問題を解かせている。授業内でも与えられた問題が終了したらすぐに問題集を解く習慣を身につけさせている。
- ・放課後に実践問題集やセンター過去問を解いたり、数多くの模試を受験させた。回数をこなすことで自信がつく生徒も多かったが、模試の難易度の高さに悪戦苦闘する場面も目立った。
- ・高校3年生で共通テスト対策の授業を設置しています。週2、3回程度です。また、私個人が行っていることですが、現高校2年生に対して、高校1年生のときから週末課題として共通テスト対策の問題を出しています。模試の結果を見ても、効果が出ていると感じています。
- ・冬期講習（希望者）において、「共通テスト対策」という授業を設けた。普段の授業は2次対策中心。また購入希望者は、共通テスト予想問題集をネットで買えるようアナウンスした。
- ・公式を使うだけでなく、何故公式が成り立つのかを説明するようにしています。公式を使えるだけでは得点につながらないだろうと思いました。
- ・70分での処理力に不安があったので、60分のセンターの問題を40分で解くなど、時間の対策、ただ解くだけでは不安なので、討論（解法に関して）をさせるなど。
- ・理系コースを選択している生徒に対して、大学入学共通テスト（数学）を意識した演習を内容の中心とする学校設定科目を設置している。文系コースを選択している生徒に対しても（単位数は理系の半分であるが）選択科目の中に同様の科目を設置している。
- ・共通テスト用の対策補習等は行っていない。
- ・普段の授業を大切にしている。

エ 「大学入学共通テスト（数学）」について

- ・今年から始まった共通テストであったが、試行テストや事前の情報に合った内容であり、センター試験のなごりもあるものだったので、驚くようなものではなく良かった。今後も逸脱しないようにしてもらいたい。
- ・比較的良問がそろっていたので良かったと思う。特にベクトルで a の値が与えられるなど計算量の差を減らす取り組みにおいては特に賛成である。工夫がされていてよかった。
- ・数Ⅰ・Aの文章量が本当に必要なか疑問である。
- ・試行調査の問題と比較すると、数学的な思考を使った内容になっていたのが安心しました。しかし、会話文が、問題を解く際のヒントになっていることが少し気になりました。もう少し、何か工夫があってもいいかなと思います。全体的には、いい問題だと思います。
- ・これまでのセンター試験では、「数値」を答える形式が中心であったが、今年度は回答群から適切な式や文章を選ばせる形式が20問程度あった。そのため、新傾向の対応に苦勞した生徒も多いと思われる。また、誘導が、全体的に丁寧であったと思われる。
- ・授業時数が限られている中でこのような問題を解けるようにするには難しいと思いますが、新しい入試として「自分で考える必要がある」ということを生徒に自覚してもらうには良い問題だったのではないかと思います。
- ・非常に良いと思います。
- ・来年以降も同じ傾向で出題して欲しい。
- ・教科書だけでは、センター試験以上に点数が取れない。教員が大事だと思っている内容と、共通テストの出題内容に大きなズレがある。
- ・大学入学共通テストは、全体を通して、例年のセンター試験よりも易化した傾向にあると考える。特に数Ⅰ・Aの2次関数や整数はその傾向が強いように感じる。一方で、情報の量はどの大問についても増加していることから、生徒にとっては難しく感じる者もいたと思う。真に必要な情報を読み取り、課題の解決に易化していくような訓練が求められていると感じた。授業においても以上のような学習や課題について実践していく必要があると考える。
- ・計算力という印象が強かった。センターが共通テストになり具体化→一般化→そこからわかること、という流れとなりまるでレポートを書いているような内容であった。素早い計算や思考という側面がないのでイメージでカバーできてしまうこともあった。また、誘導が何をしていたのかわからなくても解けてしまうのでそこからわかることがあっても印象に残らない内容であった。
- ・「大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う」という大学入試センターの主旨に合った数学の問題を作成していただきたい。現状では、「うまく誘導に従って計算し、正しく、早く解答する力を問う」ことになっていると思う。

- ・今年第1回目ということもあり、どこも手探りで準備をすることになった分、多く混乱が生じたと思われる。コロナ対策を加えると、受験生の負担が大きく、その中で対策に四苦八苦しているようであった。問題を見る限りでは、文章が増えた分、難易度が下がり、上位生には有利に、読解力に不安のある生徒は不利に（というか苦戦）なる様子であった。今後、どのような形で共通テストが進んでいくかはわからないが、長文を増やすことと、数学の力をはかることにどのような相関性があるのかが現場サイドからは見えていない。共通1次以降、「国公立大入試に挑戦するにふさわしい基礎学力の定着を確認する」ことがこの試験の目的だったと思われるが、ややズレが生じているのではないだろうか。その辺りをもっと明確にして、「共通テスト」としてふさわしい形に近づいていってくれることを期待したい。
- ・導入1年目ということで難易度は低めであったが、来年以降どのようになるかが読めないのが不安である。
- ・センター試験でよかったのでは？というのが現時点での感想。2年目、3年目と続けていく中で、どうなっていくか見ていきたい。
- ・文章を理解、読むのに時間がかかる。解答時間が適切かどうか検討してほしい。
- ・試行調査の方が、まだ数学らしさが残っていた。不要な文章が多すぎる。これを積み重ねたら点が取れるよ、という問題ではなく、数学で言えば共通テストが高得点の人と2次で高得点をとる力のある人は同様でない、と感じる。第1回目だからか、I・A・II・Bともに難易度、計算量は抑えめ。資料をすばやく読み取る力と、定義と定理の成り立ち、その分野の概念の根本的な部分の理解を問うことに重きを置かれた問題を感じる。
- ・数学I・Aの問題が全体的に文章が長く、データの分析については文章や資料の配置の仕方に問題ありと言わざるを得ない。また、配点のバランスについても再考をお願いしたい。数学II・Bは全体的にはバランスや時間配分については大幅に改善されたが、第3問に選択者の少ない統計分野をわざわざ配置するのはいかがなものか。
- ・特に数学I・Aにおいて、文を読む力が必要であると感じた。教科を問わず、すべての教育活動を通して身につける能力であると改めて実感した。
- ・文章を理解、読むのに時間がかかる。解答時間が適切かどうか検討してほしい。
- ・解きにくいと感じる生徒が多いのでは・・・と平均点ダウンを懸念したが、例年並の校内平均点が出て安堵している。気持ちを緩めずに2次試験にぶつかってほしいと思うばかりです。
- ・全体的に読む力が必要になってきたと感じた。ただ、読ませるだけで計算・思考がほとんど必要のない問題もあったと感じられたので、読ませるのであればもっと思考させる問題にしてほしいと思う。
- ・定理などを導く過程が考える事柄が多く問われているように感じた。定理を覚えて利用するだけでなく、定理が出てくる背景や定理同士をつないだりすることが必要であると感じた。
- ・全体の問題量の増加に伴い、計算余白がやや少ない印象を受けた。問題を読みながらメモなどが十分にできるような構成を検討してほしい。
- ・記述式については、採点基準の公平性を考えると問題があるので、現行通りマークシート形式でよい。
- ・問題文の量が増えた分、考える時間が不足してしまう恐れがある。時間配分をきちんとやらないとかなり厳しいと思われる。
- ・共通テストに対してというより、それに対応する教科書の内容になってほしいと思います。
- ・大学入学共通テスト自体の出願方法をweb出願にできないのだろうかと感じる。出願手続きに関わる高等学校での業務負担が大きすぎる。
- ・年度によって得点が大きく変動しないようにしてほしい。

5 終わりに

今年度より大学入学共通テストが始まり、貴重なご意見を数多くいただくことができました。この研究が多くの高校教育現場の先生方と今後の受験生のために少しでも還元できる情報となるように、今後も調査を継続していきたいと考えております。

アンケートにご協力いただきました受験生と関係の先生方、本当にありがとうございました。

※令和2年度 研究委員

荒武 亜美 (攢橋高等学校)	石田 俊介 (柏中央高等学校)	伊能 昌邦 (佐原高等学校)
長内恵里奈 (県立船橋高等学校)	加藤 純一 (県立柏高等学校)	菅根 彰宏 (長生高等学校)
松井 洋平 (千城台高等学校)	安田 学 (我孫子東高等学校)	山田 悠介 (東金高等学校)
善岡 将大 (生浜高等学校)	吉澤純一郎 (千葉東高等学校)	